

令和 4 年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

東松島市教育委員会

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

令和 4 年 4 月 19 日 (火)

3 参加児童生徒

東松島市内の小学校 6 年生 (307 人)、中学校 3 年生 (332 人)

4 調査結果 (データ) の概要

4-1 教科に関する調査結果

(1) 教科に関して

今年度は、小学校は国語科、算数科、理科、中学校では国語科、数学科、理科の調査が実施された。理科は、平成 30 年度以来 4 年ぶりに実施された。

小学校においては、国語科の正答率は、仙台市を除く県の平均正答率とほぼ同等の結果となっている。また、算数科は県及び全国の平均正答率を下回り、前回と同様の結果となった。理科については、県及び全国の平均正答率を下回ったが、前回よりも県との差は縮まってきている。

中学校の国語科は、県・全国の平均正答率をやや下回ったものの、前回と比べその差が縮まっている。また、数学科についても、県・全国の平均正答率を下回ったが、前回よりその差が縮まってきている。理科は県・全国の平均正答率を下回り、前回よりもその差が開いた。

○ 平均正答率の状況（単位%） ※宮城県…仙台市を含まない

		国語（令和3年度）	国語（令和4年度）
小学校 6年	本市	62	61
	県 (県との比較)	62 (±0)	62 (-1)
	全国 (全国との比較)	65 (-3)	66 (-5)
中学校 3年	本市	59	66
	県 (県との比較)	63 (-4)	68 (-2)
	全国 (全国との比較)	65 (-6)	69 (-3)

		算数・数学（令和3年度）	算数・数学（令和4年度）
小学校 6年	本市	64	56
	県 (県との比較)	66 (-2)	58 (-2)
	全国 (全国との比較)	70 (-6)	63 (-7)
中学校 3年	本市	48	43
	県 (県との比較)	52 (-4)	45 (-2)
	全国 (全国との比較)	57 (-9)	51 (-8)

		理科（平成30年度）	理科（令和4年度）
小学校 6年	本市	54	58
	県 (県との比較)	57 (-3)	60 (-2)
	全国 (全国との比較)	59 (-5)	63 (-5)
中学校 3年	本市	64	45
	県 (県との比較)	64 (±0)	47 (-2)
	全国 (全国との比較)	66 (-2)	49 (-4)

4-2 学習や生活習慣の様子について

(1) 学習に対する関心・意欲・態度

「好き」、「大切だと思う」、「分かる」と回答した児童生徒の割合」

[単位%, () は県(仙台市を含む)との比較]

質問事項			小学校	中学校
1	国語の勉強は好きですか。	R4	66.8 (+6.1)	74.0 (+8.7)
2	国語の勉強は大切だと思いますか。		92.1 (-0.9)	94.4 (+0.4)
3	国語の授業の内容はよく分かりますか。		85.6 (+1.4)	93.1 (+9.2)
4	算数・数学の勉強は好きですか。		57.4 (-3.1)	53.8 (-3.4)
5	算数・数学の勉強は大切だと思いますか。		94.2 (+0.5)	82.4 (-4.2)
6	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。		79.8 (+0.4)	77.6 (+4.2)
7	理科の勉強は好きですか。		84.1(+4.2)	72.8(+1.3)
8	理科の勉強は大切だとおもいますか。		88.0(+1.1)	79.1(±0)
9	理科の授業の内容はよく分かりますか。		89.6(+0.9)	83.0(+4.6)
10	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。		71.0 (-0.4)	80.9 (+4.0)

【小学生】

小学校では、国語科に関する学習意欲の高まりが見られているが、算数科については、勉強が好きだと回答する児童の割合が60%を下回っていることから、児童が算数の楽しさ、やりがいを感じながら学習を展開できるよう授業改善が必要である。

【中学生】

中学校では、国語科に関する学習意欲が県平均よりも高く、授業の内容が分かると回答している生徒が90%を超えていることから、学習意欲を喚起する課題の設定や、「できた」「分かった」と実感できる授業づくりによるものと考えられる。

数学科の勉強が好きだと回答している生徒は50%を上回る程度であり、県平均よりも低いことから、興味をもって取り組める課題設定の工夫や、授業展開の工夫など、生徒の主体性を引き出す授業改善が必要である。



(2) 家庭での基本的な生活習慣等について

[単位%, () は県(仙台市を含む)との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校	
1	朝食を毎日食べていますか。	R4	93.8(-1.3)	91.6(-1.6)	
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。		79.1(-4.9)	80.3(-2.9)	
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。		87.3(-2.9)	94.0(+0.6)	
4	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。		71.3(+1.8)	74.6(+2.0)	
5	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む)をしますか。	R4	4時間以上	18.9(+2.0)	18.2(+4.0)
			3~4時間	17.6(+3.7)	14.9(+2.0)
			2~3時間	25.7(+5.0)	19.7(-2.2)
			1~2時間	23.8(-3.5)	24.5(+2.1)
			1時間未満	9.8(-5.1)	12.2(-4.6)
			全くしない	4.2(-2.1)	10.1(-1.7)
6	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)	R4	2時間以上	4.9(-1.5)	4.8(+0.5)
			1~2時間	8.8(-1.0)	6.3(-2.0)
			30分~1時間	16.0(-2.8)	15.2(-0.1)
			10分~30分	27.0(+2.7)	16.1(-5.9)
			10分未満	16.9(+1.6)	16.4(+3.6)
			全くしない	26.4(+1.0)	41.2(+4.0)

【小学生】

小学生の「朝食、寝る時刻、起きる時刻」については、県・全国を下回る結果となった。

また、家庭でのスマートフォン等でのゲームに費やしている時間が県・全国よりも長く、前回調査と比べ3時間以上使用している割合は6%減っているものの、1時間以上使用している割合は、県・全国を上回る結果となった。

【中学生】

中学生の「朝食、寝る時刻」についても、県・全国をやや下回る結果となった。しかし「寝る時刻」については前回の結果より改善されていることが分かった。今後も基本的な生活習慣の定着を図っていくことが大切である。

また、家庭でのスマートフォン等でのゲームに費やしている時間が県・全国よりも長くなっているが、前回の結果より大幅に改善していることが分かった。

市内小・中学校が一斉に取り組んでいる「でめこん（デジタルメディア・コントロール）チャレンジ」によって、中学生におけるスマートフォン、ゲーム時間が短くなっているなど、成果が出始めていることから、この取組を今後も継続し、授業以外の時間の使い方を見直ししながら、計画的に過ごすよう意識させていくことが必要である。

（3）地域生活について

No	質問事項	年度	小学校	中学校
1	今住んでいる地域の行事に参加していますか	R4	63.8 (+6.4)	50.8 (+10.7)
2	地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることはありますか		50.2 (-0.8)	45.9 (+2.0)

【小学生】

小学生については、新型コロナウイルス感染症対策により従来の行事の中止や縮小があったものの、前回よりも地域等の行事に参加する割合が増加している。また、SDGs等に関する学習により、地域や社会をよりよくしようとする意識の高揚が見られる。

【中学生】

中学生については、半数以上が地域の行事に参加し、主体的に地域と関わろうとする意識が芽生えていることが分かった。これは、コミュニティ・スクールとしての取組や地域協働学習の成果であると言える。今後も、家庭・地域・学校で子どもたちを育てていく雰囲気醸成させていくことが大切である。

(4) 学習時間等について

[単位%, ()は県(仙台市を含む)との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校	
1	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	R4	72.7 (+4.8)	64.5 (-0.5)	
2	学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)。	R4	3時間以上	5.5 (-0.6)	6.9 (+0.1)
			2～3時間	16.3 (+2.8)	23.0 (-1.2)
			1～2時間	42.7 (+3.9)	40.9 (+3.9)
			30分～1時間	25.7 (-1.9)	19.4 (+0.6)
			30分未満	7.8 (-2.0)	6.6 (-1.9)
			全くしない	1.6 (-2.4)	3.3 (-1.4)
3	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)。	R4	4時間以上	2.3 (-1.9)	7.2 (+0.6)
			3～4時間	5.9 (+0.6)	10.7 (-2.2)
			2～3時間	12.4 (-0.5)	30.1 (+3.9)
			1～2時間	36.8 (+3.4)	27.2 (-0.6)
			1時間未満	35.2 (+2.3)	17.6 (-0.3)
			全くしない	7.5 (-3.7)	7.2 (-1.3)

【小学生】

小学生については、平日に1時間以上家庭等での勉強時間が県を上回っており、今後、さらなる家庭学習の充実を図り、質的な向上を図っていく必要がある。

【中学生】

中学生の「自分で計画を立てて勉強する」、「1日当たりの勉強時間」について、前回の結果より改善が見られている。今後、単に時間を延ばすだけではなく、何をどのように取り組むのか、質的な充実を目指した工夫が必要である。

今後、「自分で計画を立てて学習する」「家で予習・復習をする」といった家庭学習の習慣が身に付くように『家庭も地域も学びの場』(東松島市教育委員会作成リーフレット)の積極的な活用を推進していく。

(5) 自分を大切に思う思い等について [単位%, ()は県(仙台市を含む)との比較]

No	質問事項	年度	小学校	中学校
1	自分にはよいところがあると思いますか。	R4	73.9 (-2.6)	71.6 (-6.6)
2	将来の夢や目標をもっていますか。		85.3 (+6.2)	69.8 (+1.2)
3	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。		96.5 (+2.7)	95.2 (+0.1)
4	人が困っているときは、進んで助けていますか。		90.2 (+3.7)	88.1 (-0.3)
5	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。		97.0(+0.5)	97.3 (-0.2)

【小学生】

小学生については、将来の夢や目標をもち、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が約9割にのぼり、さらに他を思いやる心が育まれてきているといえる。学校や家庭、地域において児童の活躍や成長を認め、励ましながら成長を見守り、自己肯定感を持たせる声掛けが必要である。

【中学生】

中学生については、将来の夢や目標をもち、人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒が前回の結果よりも増加した。キャリア教育を含めた「志」教育を充実させ、自分のよさに気づき、自分のよさや強みを生かせる活動を取り入れることが大事である。さらに、自己肯定感をもつために、学校以外でも一人一人の生徒のよさを認め、褒め、自己存在感を味わえる声掛けや支援を行うことが必要である。

現在取り組んでいる「心あったかイートころ運動」を継続・充実させ、さらに地域とともに取り組むことにより、社会や地域に貢献しようとする態度を育てていくことが重要である。

今後も、教育活動の中で意図的に児童生徒への「出番」・「役割」・「承認」を大切に、「自己存在感を与える」「自己決定の場面を与える」「共感的な人間関係(児童・生徒・教師・保護者・地域の人々も含めて)を育成する」の生徒指導の3機能を踏まえた継続的な指導を行うことが必要である。

4-3 自己肯定感や読書活動、ゲーム時間と学力の関係について

(1) 自己肯定感と学力の関係 「自分にはよいところがあると思いますか。」

校種		平均正答率 (%)		
		国語	算数・数学	理科
小学校	当てはまる	65.8	61.2	64.5
	当てはまらない	62.1	51.6	56.7
中学校	当てはまる	65.9	44.2	45.8
	当てはまらない	62.5	40.8	42.9

この設問で、「当てはまる」と回答した児童生徒と「当てはまらない」と回答した児童生徒の各教科の平均正答率を比べてみると、平均 5.1 ポイントの開きがあることが分かった。このことから、自分を肯定的に捉えることが、学習意欲や学習の定着に良い影響を与えていると言える。児童生徒一人一人のよいところを認め、励ましていくことで、苦手なことにも取り組むことができ、課題解決に向けて粘り強く取り組むことができるようになると考えられる。今後も学校だけではなく、家庭や地域の協力を得ながら、児童生徒のもつよさを認めつつ、次の目標に向かって取り組めるように励ましていくことが大切である。

(2) 読書と学力の関係 「読書は好きですか」

校種		平均正答率 (%)		
		国語	算数・数学	理科
小学校	当てはまる	66.8	59.6	65.0
	当てはまらない	55.8	54.9	52.9
中学校	当てはまる	72.7	48.9	51.1
	当てはまらない	55.4	39.4	37.4

小・中学生ともには、「当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率は、「当てはまらない」と回答している児童生徒の平均正答率を全て上回り、その差は中学生でさらに大きくなっていることが分かる。読書に対する意識が国語科だけではなく算数・数学及び理科の平均正答率の差に顕著に表れている。これは、読書に対する意識が、問題文を読み、自分の考えをまとめることに大きく影響していると考えられる。

今後は、学校での読書活動をはじめ、より主体的な読書習慣を身に付けるために、読書が好きになるきっかけづくりが重要である。

(3) ゲーム時間と学力の関係

「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。」

校種		平均正答率（％）		
		国語	算数・数学	理科
小学校	全くしない	84.6	74.0	80.1
	4時間以上	50.6	47.7	47.9
中学校	1時間未満	76.5	60.3	54.6
	4時間以上	57.1	33.3	41.1

小学生において「全くしない」と回答した児童と「4時間以上」と回答した児童の各教科の平均正答率を比べてみると、26.3～34.0ポイントの開きがあり、その差は昨年度の約15ポイントからさらに広がっていることが分かった。ゲーム等のデジタルメディアの使用時間が、学力に影響していると考えられることから、生活を整え、よりよい生活習慣を身に付け、家庭学習の時間や家族とのコミュニケーション（団らん）の時間等を確保する取組が重要である。

中学生においては、デジタルメディアの使用時間を1時間未満と決めて、デジタルメディアの使用を自分自身でコントロールのできる生徒の正答率が高いことが分かった。中学校では、生徒会によるデジタルメディア・コントロール強調期間を決めて取り組むなど、生徒の中にその取組の目的が浸透してきている。

昨年度来、東松島市「子ども未来サミット」において、東北大学加齢医学研究所 瀧靖之 教授から基調講演をいただき、「東松島子ども宣言2021」を行い、生活を整える取組を各学校で実践している。さらに、令和4年5月に市内小中学生代表者の話し合いによる「東松島ゴール」を策定し、それを基に各学校が工夫して「デジタルメディア・コントロールチャレンジ（通称 でめこん）」に取り組んでいる。また、瀧先生による講演を、市内小中学生及び保護者が視聴できるようオンライン及びオンデマンドによる配信を行った。その結果、デジタルメディアの使い方を見直そうとする児童生徒が増えてきている。生まれた時間を家族とのコミュニケーションや学習、運動、読書などに有効活用し、生活を整え、生き生きと学校生活を送る児童生徒が増えることが期待できる。

5 「確かな学力」の育成に向けた本市の取組

児童生徒の学習支援	教師の指導力向上	教育環境整備支援
<p>◎学び支援事業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日放課後の学習支援 ・長期休業での学習支援 ・学校教育指導員等による授業サポート 	<p>◎校内研究・指導主事訪問の活用, 小中連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の実施 ・協働研究の充実 ・一人一回の研究授業 <p>⇒学校間における情報共有と校内研究の活性化</p>	<p>◎各種支援員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科教育指導員 ・不登校相談員 ・学校巡回相談員 ・特別支援教育支援員 ・SC・SSW
<p>◎読書のすすめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育支援員を配置 ・読み聞かせボランティアの活用 ・市図書館との連携 ・読書アプリの導入 	<p>◎各種研修会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上授業研修会 ・協同的な学びの充実研修会 ・授業づくり研修会 ・教師塾 ・ICT活用研修会 等 	<p>◎コミュニティ・スクールの取組充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校環境改善の支援 ・学校運営協議会での学力向上策検討や熟議の実施
<p>◎「家庭も地域も学びの場」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットの積極的な活用 ・学習課題の工夫 <p>◎ALTの配置 (英語で話そう)</p> <p>◎ICT機器の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板 ・タブレット端末 ・タブレットドリル 	<p>◎標準学力調査(年2回)・全国学力・学習状況調査の活用による実態把握と授業改善の対策</p> <p>◎魅力ある学校づくりにおける実態調査と対策</p> <p>◎学力向上推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県総合教育センターとの連携による授業づくり 	<p>◎デジタルメディア・コントロールの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東松島ゴール」の策定 ・PTA・地域との連携 <p>◎学習環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日数増加 ・教室へのエアコン整備 ・ICT環境の整備 ・プログラミング教育教材整備 等

本市では、宮城県教育委員会が示している「学力向上に向けた5つの提言」(※)を踏まえ、児童生徒の「確かな学力」の向上を図るため、上記のような取組を行っていく。

「出番」・「役割」・「承認」を与え、誰一人取り残さない、温かな人間関係づくりや学級づくりを進め、将来に夢と希望をもち、志高く生きる児童・生徒の育成に努めます。また、各学校では、確かな学力を支える健康な体づくりと体力の向上に努めています。

6 保護者、地域の皆様へ

今回の調査から、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力を育むことが、学力向上にとって極めて重要であることが分かりました。

本市では、授業において子ども同士の「聴き合い」、「伝え合い」、「学び合い」のある「協同的な学び」による授業づくりを推進し、「できた」、「わかった」、「またやってみよう」という充実感を味わわせていきたいと考えております。

また、家庭における「はやね・はやおき・朝ごはん」などの生活習慣はもとより、テレビの視聴時間、ゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンの使用時間について節度をもつことや、計画的に家庭学習をすることが、児童生徒一人一人の学力向上に大きく寄与するものと考えられます。

児童生徒の確かな学力の定着を図るために、各家庭でも以下のような取組をお願いします。

- **基本的な生活習慣（はやね・はやおき・朝ごはん）や家庭学習習慣（学年に応じた内容、時間を決めた取組等）**を身に付けさせましょう。
- **テレビ視聴時間やゲーム、携帯電話・スマートフォン等の利用**については、「東松島ゴール」等をもとに、お子さんとしっかりルールを作りましょう。
- **家庭での読書**をさらに勧め、1つのことに集中する姿勢を身に付けるとともに、文章に触れる機会を大切にしましょう。**音読**をすると、さらに効果があがります。
- タブレットを持ち返った時には、**タブレットドリル**に取り組んでみるように声掛けをしてみましょう。
- 様々な場面において、子どものよさを見だし、**本気でほめて**あげましょう。
- 子どもの失敗を受け止め、次にどのようにすればよいのかを一緒に考えましょう。失敗することは、決して悪いことではなく、次の学びにつなげることが大切です。
- 郷土の自然や文化に触れる**幅広い体験**をさせましょう。

自尊感情を養いながら、将来への「志」をもたせることが、学力向上の土台であり、学習習慣や生活習慣を確立させていくことが極めて重要です。

今後も、子どもたちに対して、家庭や地域での温かい見守りやお声掛けをよろしく願いいたします。

東松島市図書館では、家族で読書に親しむ「家読」を勧めています。

ぜひ、市図書館HPをご覧ください。



家庭も地域も学びの場

～望ましい生活習慣と家庭学習の習慣づくりが大切です～

<学びを定着させる家庭学習>

東松島市学力向上推進委員会

- 1 時間を決めて、毎日取り組もう！！
- 2 分からないことは、しらべたり、先生や友だちに聞いたりしよう！！
- 3 お気に入りの本を手もとに置こう！！

<学習を定着させるには復習が大切！>

- 1 学校で学んだことを、家庭で反復すると忘れる量は少なくなります。
- 2 復習は、学んだ直後の方が効果は高くなります。

※「学力向上に向けた5つの提言」

(平成25年10月 宮城県教育委員会)

- 1 どの子どもにも積極的に声掛けをするとともに、子どもの声に耳を傾けること。
- 2 子どもをほめること、認めること。
- 3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。
- 4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。
- 5 家庭学習の時間を確保すること。

理 解・継 続・自校化

(学力向上に向けた5つの提言の充実に向けた「3つの柱」)

【理 解】

- それぞれの5つ提言の意味を確認しましょう。
(その中に含まれた意味も確認しましょう)

【継 続】

- 学校生活のあらゆる場面で継続しましょう。
- 終結まで確実に終える授業を継続しましょう。
- 9年間の継続を図りましょう。

【自校化】

- 自校のよさと課題を踏まえた自校化をはかりましょう。

(平成29年10月 宮城県教育委員会)

(参考) 第2回東松島市「子ども未来サミット」より

東松島市「子ども宣言2021」



わたしたちは、このまちの子どもとして、豊かな自然や人の温かさにふれ、デジタルメディアとの関わり方を考え、健康的な生活を送るために宣言します。

<デジタルメディア・コントロール3本柱>

「時間・情報・健康」

- ひ … 人との交流をふかめて、デジタルメディア・コントロールをしよう
- (時間) が … 学習やすきなこと、家族とのだんらんの時間を大切にしよう
- (情報) ま … マナーを守り、個人情報を管理しよう
- (健康) つ … 使い方を考え、食事やすいみんをしっかりとうろう

(市内小・中学生が意見を交流し、令和3年7月31日に宣言しました。)

市内小中学生が取り組む

「デジタルメディア・コントロールチャレンジ (通称 でめこん)」

東松島ゴール

① 平日のデジタルメディア使用時間 (家庭学習や調べもの等での使用を除く)

- 小学生低学年 (1~3年生) : 1時間
- 同 高学年 (4~6年生) : 1時間
- 中学生 (全学年) : 1時間程度

② 平日のデジタルメディア使用終了時刻

- 小学生低学年 (1~3年生) : 午後8時
- 同 高学年 (4~6年生) : 午後8時30分
- 中学生 (全学年) : 午後9時

③ 平日の就寝時刻

- 小学生低学年 (1~3年生) : 午後9時
- 同 高学年 (4~6年生) : 午後9時30分
- 中学生 (全学年) : 午後10時



※休日の使用時間、使用終了時刻、就寝時刻については、各家庭で話し合います。

(市内小・中学校の代表者によるオンライン会議において、令和4年5月17日に策定しました。)